

「学校欠席(不登校)」を日独比較から考える

- ◆在学生・教職員対象
- ◆2023年5月19日(金) 16時~17時30分
- ◆研究講義棟内教室(詳細は前日までにお伝えします)
- ◆使用言語:日本語・ドイツ語(逐次通訳あり)

日本では「不登校」という現象がみられ、「問題化」されています。一方で、ドイツでは学校を長期に欠席する(不登校)という現象はみられません。しかしその背景では、「正当な理由のない欠席」と判断された場合、警察も介入し、学校への通学を求める厳格な制度がドイツでは運用されています。

この度、学校欠席とドロップアウトについて研究を進めるお二人の研究者をドイツよりお招きします。

教育や社会の問題、法律、国際比較などに関心がある方々、一緒に「学校欠席」について、考えてみませんか?

司会: 布川あゆみ(たふさぼ・センター長)

① はじめに:

「日本とドイツの教育制度の違い」(布川)

② 報告:

「ドイツにおける学校欠席とドロップアウト」
シュルツェ教授/リッキング教授

③ 意見交換



ギゼラ・クリステル・シュルツェ教授(オルデンブルク大学) ハインリッヒ・リッキング教授(ライプツィヒ大学)



事前申込制です。
TUFSのアカウントから
フォームの入力をお願い
いたします。

<https://onl.bz/DtxTTe7>



本件に関するお問い合わせ先:
TUFSアカデミック・サポート・センター(たふさぼ)
academic-support-center@tufs.ac.jp